

平成22年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (実施段階)

平成23年3月16日

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>地域・保護者の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 基礎学力の向上と希望進路の実現にむけて、生徒個々の実態に応じた指導を徹底する。</p> <p>2 調和のとれた人格の育成にむけ、体験活動を重視した教育活動を実践する。</p>	<p>(成果)</p> <p>1 4年生は、1名を除き進路決定ができた。</p> <p>2 教育相談会議・学習支援や関係機関との連携により、障害を持つ生徒の実態把握や指導の手立てが共有化でき、個々の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>3 部活動において、全国大会・近畿大会等の出場を果たした。</p> <p>4 農業科・家政科とも地域連携やボランティア活動に取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 「わかる授業」と基礎学力の定着を図り原級留置・中途退学の防止に努める。</p> <p>2 課題や障害のある生徒の指導計画と授業実践の研究を行う。</p> <p>3 生徒どうしの理解を深め、いじめのない学校づくりに取り組む。</p> <p>4 全員が卒業までに就労体験等に参加できるよう取り組む。</p>	<p>1 基礎学力の定着 「わかる授業」の実践と、生徒個々に応じた基礎学力を定着させる。規律ある授業環境の定着を目指す。</p> <p>2 原級留置・中途退学の防止 生徒の実態把握に努め、原級留置・中途退学の防止に取り組む。</p> <p>3 社会人になるための自覚を促す指導 基本的な生活習慣の確立を促し、体験活動を重視する中で豊かな人間性や社会性を養う取り組みを実施する。</p> <p>4 学習支援研究の充実 生徒個々の指導計画を作成する。各種障害のある生徒の指導方法や授業の方法を研究し実践する。</p> <p>5 希望進路の実現 保護者、各種関係機関と連携を深め、4年生全員の進路決定に向け取り組む。</p> <p>6 広報活動の推進と地域連携 苗販売や施設訪問等各種行事の充実により、地域連携を深めるとともに、学校だよりやホームページの内容を充実させ、広報活動を推進する。</p> <p>7 OJTの充実 教職員の資質・能力の向上及び組織としての学校の教育力を高めるという観点からOJTの一層の充実を図る。</p> <p>8 安心で安全な学校づくり 日々の点検に努め、事故のない、いじめのない学校を作る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・教育目標達成に向けた組織体制の確立	・学校経営計画に基づき、各分掌・教科が有効に機能するよう各種会議を充実させる。 ・教職員の連携により教育力を高める。	B B	・会議の定例化と課題に応じた開催で組織的な対応ができた。 ・教科、分掌のそれぞれの取組ができた。
	・生徒、保護者、地域のニーズに応える、開かれた学校づくりの推進	・生徒や保護者とのきめ細やかな対応で、効果的な指導に当たる。 ・学校説明会や学校行事、PTA総会、各学科の取組やホームページを通して、三和分校を理解してもらう。また、PTAと連携し、より良い活動を支援する。	B B	・生徒、保護者との対話を多くし効果的な指導に当たった。 ・三和分校を理解してもらう取組ができた。 ・PTAとの連携もできた。
	・体育館耐震工事に関わる安全確保と学校教育活動の円滑化	・工事関係全般において生徒の安全第一を心がけ、連携(業者打合せ、校内会議・連絡)を密にする。 ・体育授業が円滑に効率的にすすめられるよう協力体制を整える。	A A	・それぞれが円滑に機能し、順調に進んだ。 ・授業もそれぞれの協力により安全に効率よく進めることができた。
事務部	・円滑で的確な窓口業務と分校全体を見渡した、教育環境の整備	・親切、丁寧な対応を心がけるとともに、援護制度等、担任との連携を密にし、的確な事務処理を進める。 ・予算の有効活用と適正な会計事務を行う。	A A	・円滑かつ的確な窓口業務が教職員の協力の下、達成された。 ・予算の有効活用ができた。
	・危険箇所の早期発見、早期改修と校内教育環境の安	・安全点検を定例化し危険箇所の早期発見と、迅速な対応に務める。	B	・危険箇所の早期発見と迅速な対応ができた。外灯の設置ができた。

	全衛生管理を行う。	・湯茶やゴミ回収、溝の消毒等校内の清潔、整理・整頓に務める。	B	B	・溝の消毒に課題が残る。
教務部	・生徒の実態をふまえた丁寧でわかりやすい授業実践と、基礎学力の定着をはかる総合的な学力の充実推進	・学力の実態を把握し、わかる授業を展開し社会生活に役立つ学力の定着を図る。 ・学習支援教諭の効果的な活用により、課題のある生徒の基礎学力を定着させ、進級・卒業を目指す。 ・教科担当者会議（全教員）を定例化し生徒の実態の把握に努める。	B	B	・生徒の実態にあわせたわかる授業の展開に努めたが、課題のある生徒にはさらにきめ細やかな指導が必要である。 ・TTや学習支援教諭の支援体制の充実が、課題のある生徒の進級・卒業に大変有効である。 ・教科担当者会議の定例化はできなかった。
	・基礎学力講座、トライ学習、ベーシック講座の充実	・各講座・学習を有効活用し、生徒の学力を向上させる。	C	C	・生徒の取り組み姿勢に課題があった。特にトライ学習については、1時間目ということもあり、欠席者が多かった。
	・授業内容の精選と評価の工夫・検討	・内容を精選し、到達目標を明確にした評価の研究と実践を行い、進級・卒業に向けて取り組む。	B	B	・生徒個々の学力の差が大きく、課題も大きい。評価の在り方についての研修が必要である。
	・原級留置、中途退学の防止	・個々の課題を明確にし、適切な指導を組み立て確実に実践する。 ・家庭との連携を密にし、保護者等の状況を十分に把握し、生徒のためによりよい方法を互いに確認し、指導する。	B	B	・追認試験への取り組み姿勢に課題の残る生徒が多い。合格のため、更にきめ細やかな指導が必要である。 ・保護者との連携を密に、丁寧な指導を進めたが、保護者の思いと食い違う点もあった。
	・図書、視聴覚、情報関係の充実	・生徒に身近な図書・視聴覚活動を展開する。 ・情報ネットワーク（教員用）の充実を図る。	B	B	・生徒に近い、廊下での本の展示などを行い、身近な図書活動に努めた。 ・ネットワークは徐々に充実してきている。
生徒指導部	・基本的な生活習慣の確立に向けた指導	・家庭と連携し、「学び」や「生活」の基礎となる生活習慣の確立のための指導を行う。 ・社会性やコミュニケーション能力養成のため、挨拶や場に応じた言葉遣いを日常的に指導する。	C	C	・年々厳しくなる生徒や家庭状況に戸惑うことが多いが、朝の立ち番などを通じて地道に粘り強く働きかけることができた。
	・納得と説得を基本とする生徒指導の確立	・生徒個々の事情や家庭の状況に配慮し、適切な指導方針を確立し、丁寧な指導に心がける。 ・全教職員一致した指導方針を確立し、ねばり強く指導し、家庭を含めた納得と理解につなげる。	B	B	・障害やニーズ等個々の特性に配慮した指導を追求し、概ね達成できたが、生徒個々のニーズを生徒全員に理解させる課題が残る。
	・自主性の確立	・特別活動や生徒会活動の適切な援助を通して、生徒の自主性、社会性を育てる。 ・ボランティア活動を通じて、福祉の重要性の理解や環境問題への理解を深める。	B	B	・生徒会行事への適切な援助ができ、文化祭や生徒総会が成功した。 ・清掃活動を学校全体で取り組み、環境問題への関心を高められた。
進路指導部	・希望進路の実現	・生徒の希望を確認し、家庭や関係機関（ハローワーク、生活支援センター等）との連携をとりながら、希望進路実現に向けて計画的に取り組む。 ・就職支援教員との連携を密に行い、実態把握と就職	B	B	・希望進路実現に向け、LHR等を利用し計画的に取り組めた。 ・就職希望者全員が一次試験に応募できたが、二次以降の指導によ

		試験等に向けた対策を立案し就職希望者全員が一次試験に応募できるよう指導にあたる。	B		り丁寧に取り組む必要がある。
	・課題のある生徒の進路決定の取組強化	・アルバイト等の就労体験のない生徒の実態を把握し就労体験を促す。 ・課題のある生徒を理解し受け入れてくれる就職先の開拓に取り組み、進路指導の方法について情報収集をする。 ・課題のある生徒の進路決定に向けて、発達検査・療育手帳の取得・就労体験・学校見学等を早い段階から実施できるよう生徒・保護者に働きかける。	B B A	B	・課題のある生徒全員の就労体験を、支援コーディネーターと関係機関との連携により夏季休業中に実施でき生徒の実態に即した進路選択ができた。 ・就職支援教員との連携により、課題のある生徒が高卒用求人を利用して就職できた。 ・4年生の就労体験は実施できたが、3年生以下の生徒については実態把握にとどまり、実施できなかった。
	・援護制度の紹介と活用	・個々の経済的課題を把握し、修学援護と就職準備に役立つ情報を提供し活用を指導する。	B	B	・人権教育部と連携し、必要に応じた指導ができた。
保健部	・健康教育の推進	・日々の保健室利用状況や生徒の状態を的確に把握し、必要に応じた丁寧な対応を実践する。 ・学校行事やHR学習において、講演・講習会を計画し、より充実した健康教育を実践する。	A B	B	・生徒の実態に応じた対応ができた。 ・充実した内容の講演会や講習を実施することができた。
	・教育相談活動の充実	・教職員との連携を図り、生徒へのきめ細やかな指導と支援をする。 ・スクールカウンセラーや専門機関との連携を的確に行う。	B B	B	・毎月の教育相談会議をスクールカウンセラーとともに実施し、それぞれの課題を共有し指導に当たることができた。
	・環境美化活動の充実	・学習環境が清潔・整然と保たれるよう清掃やゴミ分別の指導を徹底する。 ・生徒委員会活動を活発化し、環境美化教育を強化する。	C B	C	・ゴミの分別収集は不十分であり、指導に工夫を加え徹底を図ることが課題である。
	・安全点検	・校舎内外の安全点検を定例化し、学習環境を整える。 ・修繕場所や整備の必要な状況は、事務部等との連携で速やかに対処する。	B B	B	・定期的な点検は計画通り実施できたが、日常点検では、不十分な点があり、改善が必要である。
	・人権意識の高揚と、自他を尊重できる集団づくり	・日常的に人権意識を高め、体験的な学習を取り入れ、生き方・在り方を考える機会をつくる。 ・人権アンケートの結果を生かし、計画的系統的な人権学習をすすめる。	C B	B	・HR学習で人権意識を高める取組が実践出来なかった。 ・アンケート結果を活かした講演会を実施できた。
	・きめ細やかな、就・修学援助	・各種奨学金等、保護者・担任・事務と連携をとり確実に速やかに申請する。 ・進学や就職支度金等に関する手続きなどに的確に対応する。	B B	B	・奨学金申請等は各部の連携でスムーズに進めることができた。 ・生徒一人一人の生活実態の把握が課題である。
学習・特別支援	・生徒の実態把握	・中高の連携や各種実態調査などを通じて生徒個々の認知状況など実態把握に努める。 ・「障害」特性の把握を行い、学習活動や日々の指導に活かす。	B C	B	・ニーズのある生徒の連携引き継ぎができた。 ・入学直後からのスムーズな受け入れができ、授業などに活かした。
	・学習支援の方法の研究	・課題のある生徒のニーズに応じた支援を行うため、関係機関と連携しながらその方法や内容についての研鑽を深める。	C	B	・就労に際しての関係機関との連携は密にできたが、学習支援は弱かった。

		・具体的な支援方法や内容を探るため発達検査を実施する。	B		・中丹養護学校との連携により、発達検査が実施できた。
	・関係機関との連携	・就労保障のため関係機関と連携して取り組む。	B	B	・口丹地域に次いで、中丹地域でも連携のシステムが構築できた。
学年部	・1、2年次では基本的な学習習慣・生活習慣の確立と、学校への定着	・教科・家庭・諸機関との連携により個々の生徒の課題・特徴等の把握 ・上記を踏まえて、個に応じた指導の展開	C		・学習習慣と基本的な生活習慣の確立により、学校への定着を図ったが、全員順調とは言えない。
	・3、4年次では社会的スキル・就労意識の確立と、卒業後の進路実現	・日常の挨拶等基本的なことから、アルバイトや就労体験など個に応じた方策を行う。 ・進路指導部や支援コーディネーターとの連携を図る。	B		・社会的スキルの獲得に向け、学校全体で挨拶等の強化を図った。 ・進路学習にも計画的に取り組んでいる。
	・日常的な情報共有	・日頃から生徒に対する議論を深め、個々の生徒の共通理解に努める。 ・生徒、保護者との対話を深め、必要に応じて家庭訪問など丁寧な対応を心がける。	A	B	・学年部としての連携を深めることが課題である。 ・家庭訪問等丁寧な対応に努めたが行き届かない場面もあった。
農業科	・基礎的、専門的技術の向上と生きる力の育成	・各教科や活動の中で、意欲的で節度ある態度を育成する。 ・基礎基本と実験実習を重視し、専門的技術の向上をはかる。	B		・授業規律を守らせ、基礎の定着を図り、意欲的に取り組ませた。 ・学年を追って専門的能力の向上が見られる。
	・地域連携の推進	・生産物の販売や校外活動を充実させる。 ・公的施設・地域との連携をはかる。	B	B	・苗販売や福知山市の花時計作り、ゴーヤカーテンなど地域と連携した充実した取組ができた。
	・農業クラブ活動の充実と活性化	・農業クラブ活動を活発におこない、校内行事や府連各種行事に積極的に取り組ませる。 ・農業関連資格取得の推進（小型建機、危険物、農業検定、日本農業技術検定）	C	B	・緑の学園では、担当校として積極的に取り組んだ。 ・資格取得にも、より多く参加させることが課題である。
家政科	・基礎的専門的知識・技術の定着	・実習等の体験を通して基礎的・基本的な知識・技術の修得を図り、学習したことを実生活に活用する意識や態度を養う。検定合格にも力を入れる。 ・学習困難な生徒のつまずきの原因を明らかにし、指導の工夫や補習等を行い達成感を持たせる。	B		・基礎・基本を身につける指導ができた。検定合格にも力を入れることができた。
	・家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成	・社会人講師を活用することにより授業内容の充実と活性化を図る。 ・地域の催し物等に参加し、三和分校の活動を理解してもらう。	A	B	・学習発表会でパワーポイントを使う等の指導ができた。 ・作品製作の遅れが課題である
	・家庭クラブ活動の充実と、社会性の高揚	・家庭クラブ活動の運営を自主的に取り組ませる。ボランティア活動への自発的な参加を呼びかけ体験させる。	C		・手話や中国料理、テーブルマナーなど専門の講師の講義を受けることができた。 ・三和フェスティバルは文化祭と重なり参加出来なかった。
次年度への改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒に対応するため、新一年生を中心に年度の課題を素早く掌握し対応策を打ち出していく。 ・進路指導において、関係機関とも連携し、個々にあった指導を進めていく。 ・農業クラブ、家庭クラブの活性化で学校全体をより元気にしていく。 ・生徒個々の特性や教育的ニーズを踏まえた指導を行うため、障害特性、福祉行政に関する研修を増やす。 				